

領 域	専門分野Ⅱ (老年看護学)	開講時期	1年後期
科 目 名	老年看護学概論	単 位 数 (時間数)	1単位(30時間)
講 師 (所属・職位等・実務経験)	田長丸 美和 (別府医療センター附属大分中央看護学校・専任教員・看護師 24年目)		
<p><科目目標></p> <p>老年期にある人の特徴・看護の機能と役割について理解する。 高齢者の生活を支える保健医療福祉制度や活用方法、及び高齢者の権利擁護について理解する。</p> <p><内容></p>			
回	授業内容	授業方法	
1	1. 老年期とは 1) 老年期の定義と老年看護学の位置づけ 2) 加齢と老化 3) 加齢に伴う身体的側面の変化 4) 加齢に伴う精神的側面の変化 5) 加齢に伴う社会的側面の変化	講義	
2	2. 老いを生きるということ 1) 老年期の発達課題 2) スピリチュアリティ 3) 老年期の健康 3. 超高齢社会の現状 1) 超高齢社会の現況 2) 平均寿命の推移 3) 高齢者と家族 4) 高齢者の健康状態 5) 高齢者の死亡 6) 高齢者の暮らし	講義	
3・4	4. 高齢者疑似体験 1) 高齢者疑似体験計画 2) 高齢者疑似体験の実際 3) 高齢者疑似体験後の学びの共有	演習	
5・6	5. 老年看護の対象の特徴 1) 身体的機能の変化の特徴と日常生活への影響 (1) フレイル (2) サルコペニア (3) ロコモティブシンドローム	演習 発表 講義	
7	2) 認知機能の変化の特徴と日常生活への影響 3) 社会的変化の特徴と生活への影響 (1) 社会的役割の変化：就労・雇用、経済性 (2) 家庭での生活上の役割の変化 (3) 生きがい、生活の満足感 6. 老年を生きる人々の特徴 1) セクシュアリティ 2) 高齢者の多様性とリロケーション	講義	
【課題1】「ライフストーリー」家族や知り合いの高齢者にインタビュー (冬季休業中の課題)			
8	7. 権利擁護 1) 高齢者に対するスティグマと差別 (1) スティグマ (2) エイジズム (3) 権利擁護 (アドボカシー) 2) 高齢者虐待 (1) 高齢者虐待の防止、高齢者の擁護者に対する支援等 に関する法律 (高齢者虐待防止法) 3) 身体拘束 4) 権利擁護のための制度 (1) 成年後見制度 (2) 日常生活自立支援事業	講義	
9～11	8. 高齢社会における保健医療福祉の動向 1) 老人福祉法から高齢者の医療の確保に関する法律までの経過 (1) 老人福祉法 (2) 老人保健法 (3) 高齢者保健福祉推進十か年戦略 (ゴールドプラン) (4) 新・高齢者保健福祉推進十か年戦略 (新・ゴールドプラン) (5) 今後5か年間の高齢者保健福祉施策の方向 (ゴールドプラン 21) (6) 高齢者の医療の確保に関する法律	講義	

回	授業内容	授業方法
9～11	(7) 認知症施策推進5か年計画（オレンジプラン） (8) 認知症施策推進総合戦略（新オレンジプラン） (9) 認知症施策推進大綱 2) 地域包括ケアシステムの構築に向けた取り組みの推進 (1) 地域包括ケアシステムの構築 (2) 高齢者の居住の安定確保に関する法律（高齢者住まい法） (3) 認知症施策推進5か年計画（オレンジプラン） (4) 認知症施策推進総合戦略（新オレンジプラン） (5) 認知症施策推進大綱 (6) 地域包括支援センター 3) 介護保険制度の創設と改正、しくみ	講義
12・13	8. 老人保健・医療・福祉の動向 4) 介護保険サービス 「私達が生活する地域の高齢社会の現状と介護保険サービスの実際」	演習 発表
14	9. 高齢者を支える多職種連携と看護活動の多様化 1) 高齢者の生活と健康を支える多様な職種 2) 看護職の活動の拡大と専門化 3) 高齢者とソーシャルサポート 4) 老年看護に役立つ理論・概念 (1) サクセスフルエイジング (2) コンフォート理論 (3) ストレングスモデル 5) 生活の視点にたった QOL を高める看護（寛ぎと安心・安全）	講義
15	10. 老年看護の役割と特徴 1) エンパワメント 2) ICF モデル 3) エンドオブライフケア 4) セルフヘルプグループ 5) 多職種連携（ケアチーム） 6) リロケーションダメージの回避 11. 老年看護に携わる者の責務	講義
<p>授業の進め方</p> <p>講義、グループワーク演習、高齢者疑似体験やライフストーリー聴取等を通して、老化が身体に及ぼす影響や心の変化、日常生活への影響などについて考える。</p> <p>老年期にある人の「身体的機能の変化の特徴と日常生活への影響」、「私達が生活する地域の高齢社会の現状と介護保険サービスの実際について」はグループ毎にまとめ発表する。課題に沿った内容整理、発表での媒体の工夫やまとめ方についても考える機会とする。</p>		
<p>テキスト</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学(医学書院) 2. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護 病態・疾患論(医学書院) 3. 国民衛生の動向 2021/2022年版(厚生統計協会) 		
<p>評価方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 筆記試験 2. レポート、グループワークの課題、授業参加状況により総合的に評価する。 		

領 域	専門分野Ⅱ（老年看護学）	開講時期	2年前期
科 目 名 （单元名）	老年看護方法論Ⅰ （高齢者の日常生活援助）	単 位 数 （時間数）	1単位（30時間）
講 師 （所属・職位等・実務経験）	①池ヶ谷 知美（別府医療センター附属大分中央看護学校・専任教員・看護師29年） ②幸 邦子（別府医療センター・摂食嚥下障害認定看護師・看護師35年） ③山本 幸子（別府市朝日地域包括支援センター・看護師19年） ④雨宮 洋子（社会福祉法人泰生会・理事長・35年）		
<科目目標> 加齢によって起こる身体・精神機能の変化や高齢者のQOLを理解し高齢者の生活機能の保持増進への援助を理解する。また、これまで学んだ日常生活援助技術の知識や技術を統合し高齢者の日常生活における自立を促進するための援助技術を理解する。			
<内容>			
回	内容	授業方法	担当講師
1	1. 高齢者の日常生活を支える基本的活動 1) 生活の基本となる日常生活動作と環境 (1) 基本動作 (2) 基本動作・姿勢を支える環境 2. 高齢者の生活機能と包括的アセスメント 1) 基本的日常生活動作（BADL）と手段的日常生活動作（IADL）の必要性 2) 高齢者における生活機能障がいのとらえ方 3) 日常生活活動の評価	講義	①
2	3. 高齢者の生活リズム 1) 高齢者と生活リズム 2) 高齢者に特徴的な変調 (1) 睡眠と覚醒の変化 (2) 睡眠障がい 3) 高齢者の生活リズムのアセスメント (1) 睡眠の評価 (2) 生活リズムの変調 4) 生活リズムを整える看護 (1) 昼間のケア (2) 夜間のケア 4. 高齢者の活動（転倒・転落） 1) 転倒のアセスメントと看護 (1) 転倒リスクアセスメント (2) 転倒予防に向けた援助 (3) 転倒した高齢者への看護 2) 廃用症候群のアセスメントと看護 (1) 廃用症候群とは (2) 廃用症候群の早期発見・予防に向けた看護	講義	①
3	4. 高齢者の活動 3) 介護予防に取り組むための支援 (1) 運動機能向上プログラムや閉じこもり予防のプログラム (2) 日常生活と運動	講義 演習	③
4・5	5. 高齢者の食事・食生活 1) 高齢者における食生活の意義 2) 加齢に伴う摂食嚥下機能の変化 3) 食生活のアセスメント (1) 食事環境 (2) 摂食嚥下能力 (3) 栄養状態	講義 演習	②

回	内容	授業方法	担当講師
4・5	4) 食生活の支援 (1) 食べることへの意欲の維持・向上 (2) 食事形態の工夫 (3) 食器や自助具の工夫 (4) 口腔ケア 5) 危険を予測した観察と看護 (1) 誤嚥性肺炎 (2) 窒息 (3) 主体性の低下 (4) スキントラブル (5) 脱水 (6) 低栄養 6) 多職種協働による食支援 (1) 栄養サポートチーム (NST) 7) 咀嚼嚥下機能に障がいをもつ高齢者の看護	講義 演習	②
6	6. 高齢者の排泄 1) 高齢者の排泄ケアの基本 (1) 高齢者の尊厳をまもる排泄ケア (2) 排泄リズムの把握と生活調整 2) 排尿障害のアセスメントとケア (1) 排尿のアセスメント (2) 排尿障がいの特徴とケア ①尿失禁の病態と要因 ②尿失禁のケア 3) 排便障がいのアセスメントとケア (1) 排便のアセスメント (2) 排便障がいの特徴とケア ①便秘・下痢の病態と要因②便秘・下痢のケア 4) おむつを使用している高齢者への援助	講義 演習 DVD	①
7	(1) おむつ装着とおむつ交換の実際の援助 【事前課題】 テキストを基にオムツ装着時のケアについてまとめる。	演習	①
8・9	7. 高齢者の清潔 1) 高齢者の特徴 (1) 皮膚の老化 (2) 弾力性の低下 (3) 乾燥 (4) 感覚(温覚)機能の低下 2) 高齢者に生じやすい清潔に関する健康課題 (1) 皮膚障がい (2) 清潔のセルフケア能力の変化 3) 清潔のアセスメント 4) 清潔の援助の実際 (1) 安全・自立を支える入浴 (2) 清拭 (3) 陰部洗浄 (4) フットケア(足浴) (5) 耳のケア (6) 目のケア	講義 演習	①
10・11	8. 高齢者とのコミュニケーションとかわり方 1) コミュニケーションの基本 2) 高齢者にみられるコミュニケーション上の特徴 (1) 加齢変化 (2) 疾患、障がいの影響 3) 高齢者とのコミュニケーションの原則 4) コミュニケーション能力のアセスメント 5) 高齢者におこりやすいコミュニケーション障がいとアセスメント (1) 老人性(加齢性)難聴 (2) 失語症 (3) 構音障がい 6) 高齢者の状態・状況に応じたコミュニケーションの実際と方法 (1) 聴覚障がいのある高齢者とのコミュニケーション ①高齢者の聴覚障がいの病態と要因 ②聴覚障がいの程度と生活機能への影響 ③補聴器を使用する高齢者とその家族への援助	講義 演習	①

回	内容	授業方法	担当講師
10・11	(2) 視覚障がいのある高齢者とのコミュニケーション ①高齢者の視覚障がいの病態と要因 ②視覚障がいの程度と生活機能への影響と看護 (3) 失語症・構音障がいのある高齢者とのコミュニケーション ①高齢者の失語症の病態と要因 ②失語症・構音障がいの程度と生活機能への影響 9. 高齢者のセクシュアリティ 1) 高齢者のセクシュアリティとは 2) セクシュアリティのアセスメントと看護 10. 高齢者の社会参加 1) 高齢化の現状と目ざす社会の方向性 2) 地域における高齢者の社会参加	講義 演習	①
12～ 15	11. 認知症高齢者の看護 1) 認知症とは (1) 認知症の定義 (2) 認知症高齢者の理解 (3) 認知症の疫学 (4) 認知症の分類 2) 認知症の症状 (1) 認知機能障がい (中核症状) (2) 認知症の行動・心理症状 3) 認知症の治療と予防 4) 認知機能および生活機能の評価 (1) 認知機能の評価 (2) 生活機能の評価 (3) 評価尺度の活用方法 5) 認知症高齢者の看護 (1) 環境と環境調整 (2) 安全面への対処 (3) 対応の実際 (4) 認知症高齢者とのコミュニケーション方法 (5) 認知症高齢者の環境調整 (6) 急性期医療における認知症高齢者の看護 (7) 認知症高齢者と家族へのサポートシステム	講義 DVD	④
授業の進め方			
<p>加齢が及ぼす症状や生活行動への影響に着目し、その要因を理解し考える。生活行動では日常生活行動だけでなく住環境や人的環境にも着目し、高齢者が社会で生活するための環境を考える。このように、高齢者の生活行動から援助を考え、高齢者のQOLとは何かを理解する。また、社会との関わりで必要となるコミュニケーションの障害要因と看護を理解し、高齢者のコミュニケーションを理解する。認知症の病態と認知機能の評価について学習し、対象の状態に応じた日常生活援助の方法や留意点、認知症の高齢者を支えるケアシステム、家族支援のありようについて学習する。また、DVDの事例にて考えさせる。</p>			
テキスト・参考文献			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 (医学書院) : ①②③④ 2. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護 病態・疾患論 (医学書院) : ④ 3. 看護 形態機能学 第4版 生活行動からみるからだ (日本看護協会出版会) : ① 4. カラー写真で学ぶ高齢者の看護技術 (医歯薬出版株式会社) : ① 			
評価方法			
<p>筆記試験、レポート、演習における参加状況を総合的に評価する。</p>			

領 域	専門分野Ⅱ(老年看護学)	開講時期	2年前期
科目名 (单元名)	老年看護方法論Ⅱ (高齢者の特徴的な看護)	単位数 (時間数)	1単位(30時間)うち30時間
講 師 (所属・職位等・実務経験)	①山田 祐子 (別府医療センター附属大分中央看護学校・専任教員・看護師25年) ②中村 香那 (別府医療センター・看護師6年) ③秋好 美希 (別府医療センター・副看護師長・看護師10年) ④安部 佐和美 (別府医療センター・透析看護認定看護師・看護師17年) ⑤福本 渚 (別府医療センター・教育担当師長・感染管理認定看護師19年) ⑥泉 雄大 (別府医療センター・看護師7年)		
<科目目標> 薬物療法や手術療法を受ける高齢者の看護・高齢者に特徴的な健康問題を持つ患者の看護・終末期にある高齢者の看護を理解する。			
<内容>			
回	授業内容	授業方法	担当講師
1～4	1. 入院を必要とする高齢者の看護 (認知症高齢者の急性期一般病床での援助を含む) 1) 高齢者の入院 2) 生活適応を支援する看護活動 3) 生活適応を支援するケア 2. 退院時の看護と継続看護 1) 退院計画立案に向けたアセスメント 2) 退院に向けた高齢者と家族の意思決定への支援 3) 退院に向けたチームアプローチ 4) 退院指導 3. 薬物療法を受ける高齢者の看護 1) 加齢に伴う薬物動態の変化 2) 服薬管理とリスクマネジメント (1) 複数の疾患を罹患していることによる影響 (2) 副作用をまねきやすい薬物 (3) 服薬管理 3) 薬物療法時の看護の要点 (1) 薬物療法時の看護師の役割 ①薬物副作用の徴候の観察・評価 ②薬物副作用の予防 ③服薬過誤の予防と看護 4) 高齢者の在宅を考慮した服薬 4. 手術を受ける高齢者の看護 1) 麻酔・手術侵襲が高齢者に与える影響 2) 高齢者の手術療法におけるインフォームド・コンセントと看護師の役割 3) 術前準備における高齢者への援助 (1) 検査・手術に関する説明と了解 (2) 術前指導 4) 手術中における高齢者への援助 5) 術後合併症の予防と援助 (1) 早期離床への援助 (2) 術後せん妄と看護 (せん妄の病態と要因と予防のための援助、せん妄発生時の治療と援助)	講義	①

回	授業内容	授業方法	担当講師
5	5. 視力障がいのある高齢者の看護 1) 加齢黄斑変性症の患者の看護 (1) 病態及び症状 (2) 加齢黄斑変性症治療時の看護 2) 白内障患者の看護 (1) 病態及び症状 (2) 白内障治療時の看護 ①手術療法 ②薬物療法 (点眼) 3) 生活への影響のアセスメントと看護 (1) 視力障がいが日常生活に及ぼす影響 (2) 感染リスクの要因と予防への看護 (3) セルフコントロールの状態 (4) 転倒リスクの予防と予測される危険性(排泄行動の影響、生活リズムの乱れ)	講義	②
6・7	6. 排泄障がいのある高齢患者の看護 1) 前立腺肥大症患者の看護 (1) 病態及び症状 (2) 前立腺肥大症治療時の看護 ①手術療法 ②薬物療法 (3) 生活への影響のアセスメントと看護 ①排尿障がいの種類(頻尿、排尿困難、尿失禁) ②排尿障がいのアセスメントと看護(排尿障害の状況、尿閉のアセスメント、頻尿による睡眠障害、家族のサポート状況) ③排尿障がいの状況、日常生活に及ぼす影響 ④血尿スケール評価 ⑤頻尿による睡眠障がい	講義	③
8～10	2) 慢性腎不全患者の看護 (1) 病態及び症状 (浮腫、高血圧、尿毒症) (2) 腎不全における検査と援助 (3) 腎不全における治療・処置が高齢者に及ぼす影響と援助 ①薬物療法 ②食事療法 ③透析療法 i 保存期から透析導入期の援助 ii 血液透析を受ける患者の看護 iii 腹膜透析を受ける患者の看護	講義	④
11	7. 感染症患者の看護 1) 高齢者の感染症の背景と特徴 (1) 身体的要因：加齢による変化(易感染性、認知力の低下、予備力の低下) (2) 感染症が高齢者の生活に与える影響 (3) 高齢者が罹患しやすい感染症 2) 感染症のリスクアセスメント 3) 感染症ケアの実際 (1) 感染の予防 (2) 感染症の早期発見のため的高齢者の症状観察 (3) 感染症患者の看護(栄養の保持、清潔の保持、体力の消耗を抑える、脱水の予防)	講義	⑤

回	授業内容	授業方法	担当講師
12・13	8. 運動機能障がいのある高齢患者の看護 1) 大腿骨頸部骨折患者の看護 (1) 大腿骨頸部骨折の病態・症状 (骨折部位と治療) (2) 治療内容と留意点(加齢による特徴) ①保存療法を受ける患者の看護 (徒手整復 牽引療法) ②手術療法を受ける患者の看護 (骨接合術 人工股関節置換術) (3) 急性期、回復期における看護 2) 変形性膝関節症患者の看護 (1) 変形性膝関節症の病態・症状 (2) 治療内容と留意点 (加齢による特徴) (3) 急性期、回復期における看護	講義	⑥
14・15	9. 高齢者の終末期の看護 1) 終末期の概念と高齢者の晩年期の特徴 (1) 高齢者の死の動向 2) 終末期における生き方や死の迎え方の意向 (1) 終末期に携わる医療の変化 (人間の尊厳、延命とQOL) (2) アドバンスディレクティブ<事前指示> (3) リビングウィル	講義	①

授業の進め方

入院により生活上の変化を余儀なくされる高齢者は、生活リズムの変調によって問題が生じやすい。高齢者は複数の疾患を有することから、薬物も多剤を服用する特徴をもつ。しかし、肝・腎機能の低下や様々な要因により作用だけでなく副作用も出現しやすい。また、服薬コンプライアンスの低下から自己管理も困難な状況もある。講義を通して、このような高齢者の特徴を理解した援助を考える。また、手術療法を受ける看護については、身体緒機能の低下や複数の疾患を有することから、手術後の回復に時間を要し、術後の合併症も起こしやすい高齢者の特徴を理解した、術前・術中・術後の看護を学習する。

テキスト

1. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学(医学書院) : ①
2. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護 病態・疾患論(医学書院) : ①
3. 新体系看護学全書 老年看護学② 健康障害をもつ高齢者の看護(メヂカルフレンド) : ①
4. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [13] 眼 (医学書院) : ②
5. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [8] 腎・泌尿器 (医学書院) : ③④
6. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ アレルギー 膠原病 感染症 (医学書院) : ⑤
7. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[10] 運動器(医学書院) : ⑥
8. 系統看護学講座 別巻 緩和ケア(医学書院) : ①
9. 生活機能からみた老年看護過程+病態・生活機能関連図(医学書院) : ④⑥

評価方法

筆記試験、レポート評価

領域	専門分野Ⅱ(老年看護学)	開講時期	2年前期
科目名 (単元名)	老年看護方法論Ⅲ	単位数 (時間数)	1単位(15時間)
講師 (所属・職位等・実務経験)	①脇坂 千晶 (西別府病院・看護師17年) ②田長丸 美和 (別府医療センター附属大分中央看護学校・専任教員・看護師24年)		
<p><科目目標> 老年看護学概論、老年看護方法論で学んだ知識と技術を統合し、事例を用いて健康障がいを持つ高齢者の看護を理解する。</p> <p><内容></p>			
回	授業内容	授業方法	担当講師
1・2	1. パーキンソン病・パーキンソン症候群患者の看護 1) 病態及び症状 2) 治療と援助 3) 生活への影響のアセスメントと看護 (1) 日常生活の障害度 (2) 疾患の受容の援助 (3) ADLの状態に応じた看護 食事・排泄・整容・コミュニケーション・生活指導・自律神経症状・症状の日内変動・服薬コンプライアンス・家族のサポート状況 (4) 退院時の社会的資源の活用	講義	①
<p>【課題1】 75歳の男性、パーキンソン病で症状および薬物コントロールのため入院した患者の事例を提示する。疾病論Ⅲ、老年看護学概論や老年看護方法論等の既習学習を活用し、事例患者の理解につながる学習を行う。</p>			
3	1. 老年看護における看護過程展開の特徴 2. 問題解決型思考と目標志向型志向 3. 高齢者の包括的アセスメントとアセスメント指標の活用	講義	②
<p>【課題2】 2講目開始前までに1次アセスメントの記載を行う。</p>			
4	4. 第1段階アセスメントの検討 1) 発達段階の特徴の考慮 2) 指標の活用 3) 強み因子の活用 4) 対処機制に影響する因子	講義 演習(GW)	②
<p>【課題3】 3講目開始前までに関連図の記載を行う。</p>			
5	5. 関連図の検討 1) 第2段階アセスメント・関連図・看護診断を検討し、事例患者の加齢や健康障がいから起こるリスク・問題の要因を考える。 2) 介入計画が高齢者のQOLを考えた援助となっているか考える。	講義 演習(GW)	②
<p>【課題4】 4講目開始前までに2次アセスメントの記載を行う。</p>			
6・7	6. 刺激のアセスメントの検討 1) 症状と日常生活障がいの評価 2) 二次的障がいのリスク評価 3) 障がい・疾病に対する思いと自立への視点 4) 家族の支援とソーシャルサポート 5) 発達理論、セルフケア理論の活用	講義 演習(GW)	②

回	授業内容	授業方法	担当講師
【課題5】 6講目開始前までに介入計画の記載を行う。			
8	7. 介入計画の検討 1) 強み因子を活かした援助計画 2) 合併症の予防と自立の促進を考慮した援助計画 3) 家族を含めた援助計画 8. 看護の評価	講義 演習 (GW)	②
授業の進め方 老年看護学の看護の展開では、パーキンソン症候群で日常生活に障害をきたした患者の看護を学習する。パーキンソン病・パーキンソン症候群は進行性の疾患であり、症状の進行や変動に応じた生活支援のあり方や家族支援のあり方を学習する。パーキンソン病で日常生活に障害をきたした高齢者の看護過程を展開し、加齢や健康障害が高齢者に及ぼす影響を理解し、高齢者の看護問題と目標設定のありよう、個別性を活かした介入計画とは何か検討していく。 成人看護学等看護過程の既習学習を活かしながら、老年看護学概論、老年看護方法論Ⅰ、Ⅱ、Ⅲの学習内容を統合させ、個人ワーク・グループワーク・全体検討を繰り返すことにより思考を深化させる。			
テキスト 1. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学(医学書院)：①② 2. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護 病態・疾患論(医学書院)：① 3. 系統看護学講座 別巻 リハビリテーション看護(医学書院)：①② 4. 生活機能からみた老年看護過程+病態・生活機能関連図(医学書院)：② 5. NANDA-Ⅰ看護診断 定義と分類<2018-2020>(医学書院) 確認：②			
評価方法 筆記試験、レポート、課題、演習参加状況より総合的に評価する。			